



平成28年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年1月7日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 クリーク・アンド・リバー社
 コード番号 4763 URL <http://www.cri.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役
 四半期報告書提出予定日 平成28年1月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 機関投資家・アナリスト向け

(氏名) 井川 幸広
 (氏名) 黒崎 淳

TEL 03-4550-0011

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年2月期第3四半期の連結業績(平成27年3月1日～平成27年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年2月期第3四半期	18,579	7.2	1,010	△8.0	972	△12.9	487	△21.2
27年2月期第3四半期	17,331	13.4	1,097	23.5	1,115	25.2	619	57.5

(注) 包括利益 28年2月期第3四半期 92百万円 (△86.2%) 27年2月期第3四半期 670百万円 (33.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年2月期第3四半期	23.48	23.06
27年2月期第3四半期	29.03	28.59

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年2月期第3四半期	8,807	5,120	52.9
27年2月期	9,052	5,140	52.6

(参考) 自己資本 28年2月期第3四半期 4,657百万円 27年2月期 4,758百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年2月期	—	0.00	—	7.00	7.00
28年2月期	—	0.00	—		
28年2月期(予想)				8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年2月期の連結業績予想(平成27年3月1日～平成28年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,000	9.0	1,500	15.7	1,500	13.6	800	7.5	37.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年2月期3Q	22,609,000 株	27年2月期	22,609,000 株
② 期末自己株式数	28年2月期3Q	1,829,100 株	27年2月期	1,829,100 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年2月期3Q	20,779,900 株	27年2月期3Q	21,334,882 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は完了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料6ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	4
(1) 経営成績に関する説明	4
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	7
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	7
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	7
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	7
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	7
4. 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	10
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	11
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策及び金融政策により、企業業績や雇用情勢の改善が続く一方で、中国経済の先行きに対する懸念が強まったことや中東情勢が緊迫したこと等により、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループは「人の能力により社会に貢献する」ことを理念として掲げ、事業を運営してまいりました。当社グループのネットワークするクリエイター、医師、ITエンジニア、弁護士、会計士、建築士、ファッションデザイナー等、専門的な能力を有するプロフェッショナルへのニーズは旺盛で、事業が堅調に推移いたしました。

平成27年4月には、広告分野における人材事業を強化することを目的に、広告・Web業界に特化した求人メディア「広告転職.com」を運営する株式会社プロフェッショナルメディアの株式取得及び第三者割当増資を引き受け、連結子会社化いたしました。また、平成27年5月には、当社が手掛ける映像、Web、ゲーム、広告・出版物等、あらゆるクリエイティブコンテンツの企画・開発における付加価値を高めることを目的に、データ解析技術において独自のノウハウを有するエコノミックインデックス株式会社の第三者割当増資を引き受け、持分法適用関連会社化いたしました。今後も当社グループの持続的な成長のため、「プロフェッショナル分野に特化したエージェンシー事業」の拡大を目指し、新たなプロフェッショナル分野での事業展開を積極的に進めてまいります。

当第3四半期連結累計期間における売上高は堅調に推移し、IT分野における大型案件が減少したこと及び戦略的に人員採用を行なったことに加え、平成27年12月にリリースしたオリジナルスマートフォンゲーム『戦国修羅SOUL』のプロモーション費用が先行したこと等により、営業利益においては前年同期を若干下回ったものの、概ね計画通りに推移いたしました。また、平成27年5月に持分法適用関連会社化したエコノミックインデックス株式会社等において持分法による投資損失を40百万円計上した結果、経常利益及び四半期純利益において前年同期を下回ることとなりました。

これらの結果、当社グループの第3四半期連結累計期間の業績は、売上高18,579百万円(前年同期比107.2%)、営業利益1,010百万円(前年同期比92.0%)、経常利益972百万円(前年同期比87.1%)、四半期純利益487百万円(前年同期比78.8%)となりました。

当第3四半期連結累計期間における事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

① クリエイティブ分野(日本)

クリエイティブ分野(日本)は、グループの中核となる当社が、映像、ゲーム、Web・モバイル、広告・出版等のクリエイティブ領域で活躍するクリエイターを対象としたエージェンシー事業を展開しております。

映像・TV・映像技術関連分野においては、当社独自のリクルーティングによる映像専門社員90名が4月に入社し、TV番組の制作スタッフ数が増加していることに加え、日本全国の放送局をネットワーク化する等、サービスを拡充しております。

ゲーム分野においては、コンシューマー、アミューズメント、ソーシャル分野のクリエイターの派遣需要の増加に着実に対応するとともに、昨年拡張した制作スタジオにて、制作受託案件や自社開発への対応及びクリエイターの育成機能を強化しております。平成27年10月には、当社が共同製作した3DCGアニメ映画『GAMBA ガンバと仲間たち』の公開に合わせ、当映画のキャラクターと世界観を共有したスマートフォンゲーム『GAMBA RACER』の配信を開始した他、『戦国修羅SOUL』のリリースに向けたプロモーションを開始いたしました。

Web分野においては、大手広告代理店を経由した大規模Webサイトの制作案件が増加し、当社独自の採用、育成によるアカウントプロデューサー社員を中心に対応しております。

出版分野では、Amazon Kindleを始めとした複数の専用端末に対し当社が取次を行なう電子書籍取次事業において、順調に配信数、ダウンロード数が増加しております。

YouTube「オンラインクリエイターズ」の運用においては、クリエイターによりアップロードされた動画の再生回数が順調に増加している他、地方自治体や企業のプロモーション案件が増加し、事業の基盤が着実に整いつつあります。平成27年10月には、YouTubeに自作動画を投稿するクリエイターとクライアントとを繋ぐ、ソーシャルクリエイターマッチング・分析プラットフォーム「EUREKA(エウレカ)」の提供を開始いたしました。

当第3四半期連結累計期間における売上高は堅調に推移したものの、戦略的に人員採用を行なったことに加え、平成27年12月にリリースしたオリジナルスマートフォンゲーム『戦国修羅SOUL』のプロモーション費用が先行したこと等により、営業利益においては前年同期を若干下回ったものの、概ね計画通りに推移いたしました。

これらの結果、クリエイティブ分野(日本)は、売上高11,428百万円(前年同期比107.9%)、セグメント利益(営業利益)569百万円(前年同期比91.1%)となりました。

② クリエイティブ分野(韓国)

クリエイティブ分野(韓国)は、連結子会社CREEK & RIVER KOREA Co.,Ltd.が、クリエイティブ分野(日本)と同様のビジネスモデルを韓国にて展開しております。

TV・映像分野におけるクリエイターの派遣需要に的確に対応している一方で、韓国国内における派遣事業の競争激化等の影響を受けており、利益率が低下傾向にあります。TV分野におけるクリエイター・ネットワークを活かした受託案件への展開、漫画家を中心としたトップクリエイターのマネジメントによる韓国で流行のWebコミック案件や当社グループの他分野と連動した出版エージェンシー事業、ファッションクリエイター・エージェンシー事業等の推進により、収益の多様化を目指しております。

当第3四半期連結累計期間における売上高は堅調に推移いたしました。利益率の低下により、セグメント利益としては前年同期を下回る結果となりました。

これらの結果、クリエイティブ分野(韓国)は売上高2,604百万円(前年同期比106.4%)、セグメント利益(営業利益)15百万円(前年同期比88.0%)となりました。

③ 医療分野

医療分野は、連結子会社株式会社メディカル・プリンシプル社が、「民間医局」のブランドのもと、ドクター・エージェンシーを中心とした事業展開をしております。医療機関や自治体、医師や看護師の多様なニーズに応えるべく、医師の紹介事業を中心に、医学生・研修医を対象とした「レジナビフェア」、臨床研修情報サイト「レジナビ」、医師の転職・求人・募集情報サイト「Medigate(メディゲート)」、医師を対象に提供する教育プログラム「民間医局アカデミー」等のサービスを展開しております。全国各地での慢性的な医師不足、地域的偏在を背景に、医師へのニーズは引き続き高く、医師の紹介事業が好調に推移いたしました。

当第3四半期連結累計期間における売上高は堅調に推移し、セグメント利益としては前年同期及び計画を上回りました。

これらの結果、医療分野は売上高2,410百万円(前年同期比106.1%)、セグメント利益(営業利益)422百万円(前年同期比110.6%)となりました。

④ その他の事業

IT分野のエージェンシー事業を展開する連結子会社株式会社リーディング・エッジ社では、プログラム言語Pythonのセミナーを行なう等サービスを拡充し、ITエンジニアの派遣事業並びに大規模な計算結果を可視化するビジュアライゼーション事業の推進により、事業基盤の再構築を進めております。

法曹分野のエージェンシー事業を展開する連結子会社株式会社C&Rリーガル・エージェンシー社では、弁護士の登録者数が8,200名を超え、弁護士の紹介事業が順調に伸長しております。

会計分野のエージェンシー事業を展開する連結子会社ジャスネットコミュニケーションズ株式会社では、会計・経理人材の派遣事業・紹介事業が拡大する一方で、会計関連各種団体との関係強化、クライアント企業・事務所との共同セミナーの積極的な開催、様々な企業や事務所から提供される経理・財務分野に特化した教育講座が学べるプラットフォーム「Accountant's Library」等を通じ、会計業界における認知度向上をはかっております。

ファッション分野のエージェンシー事業を展開する連結子会社株式会社インター・ベルにおいては、アパレルメーカーとの豊富なネットワークと社内の持つ販売員育成ノウハウにより、アパレルメーカーからのニーズが増加しております。

また、広告分野における人材事業を強化することを目的に連結子会社化した株式会社プロフェッショナルメディアにおいては、平成27年9月に、広告・Web業界専門の求人サイト「広告転職.com」を全面的にリニューアルいたしました。今後、当社の持つクリエイティブ業界におけるクライアント及びクリエイター・ネットワークとのシナジーにより、事業規模・収益基盤の拡充を目指してまいります。

当第3四半期連結累計期間においては、売上高は堅調に推移し前年同期を上回ったものの、IT分野における大型案件が減少したこと及び、株式会社プロフェッショナルメディアにおいて事業基盤強化に向け費用が先行していること等により、利益面では前年同期を下回ることとなりました。

これらの結果、その他の事業は売上高2,136百万円(前年同期比105.6%)、セグメント利益(営業利益)1百万円(前年同期比1.8%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末より90百万円減少し6,425百万円となりました。これは、主として現金及び預金の減少、受取手形及び売掛金の増加等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末より155百万円減少し2,381百万円となりました。これは主として、クリエイティブ分野(日本)において基幹システムのリニューアルを実施しており、無形固定資産「その他」に含まれるソフトウェア仮勘定が増加したこと、エコノミックインデックス株式会社の第三者割当増資の引受けにより投資その他の資産「その他」に含まれる関係会社株式が増加したこと、時価の変動により投資有価証券が減少し、投資その他の資産が減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末より52百万円増加し3,478百万円となりました。これは、主として「その他」に含まれる未払金及び未払消費税の減少や未払費用の増加、短期借入金の増加等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末より277百万円減少し207百万円となりました。これは、主として投資有価証券の時価の変動により評価差額が減少し、繰延税金負債が減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末より20百万円減少し5,120百万円となりました。これは、主として四半期純利益の計上により利益剰余金が増加した一方で、配当の支払により利益剰余金が減少したこと及び投資有価証券の時価の変動によりその他有価証券評価差額金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点において、平成27年4月8日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」から変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

② 固定資産の減価償却費の算定方法

減価償却の方法として定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,293,362	3,196,412
受取手形及び売掛金	2,757,906	2,852,657
製品	—	674
仕掛品	105,996	77,703
貯蔵品	2,153	1,230
その他	370,291	309,341
貸倒引当金	△14,476	△12,857
流動資産合計	6,515,233	6,425,161
固定資産		
有形固定資産	216,992	256,577
無形固定資産		
のれん	61,482	115,921
ソフトウェア	223,284	286,026
その他	22,215	117,853
無形固定資産合計	306,982	519,801
投資その他の資産		
投資有価証券	1,117,174	452,937
敷金及び保証金	596,875	671,110
その他	584,754	765,438
貸倒引当金	△285,452	△283,954
投資その他の資産合計	2,013,352	1,605,531
固定資産合計	2,537,328	2,381,911
資産合計	9,052,562	8,807,072
負債の部		
流動負債		
営業未払金	1,218,271	1,209,124
短期借入金	500,000	660,000
1年内返済予定の長期借入金	11,628	—
未払法人税等	194,412	176,285
賞与引当金	136,365	214,064
保証履行引当金	6,556	8,416
工事損失引当金	7,000	—
その他	1,352,121	1,210,880
流動負債合計	3,426,356	3,478,771
固定負債		
長期借入金	52,498	—
退職給付に係る負債	105,908	118,620
株式給付引当金	—	17,466
繰延税金負債	323,201	69,463
その他	3,709	2,413
固定負債合計	485,317	207,964
負債合計	3,911,673	3,686,735

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,035,594	1,035,594
資本剰余金	1,874,684	1,874,684
利益剰余金	1,884,922	2,224,417
自己株式	△731,090	△731,090
株主資本合計	4,064,110	4,403,605
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	646,481	231,943
為替換算調整勘定	47,983	22,338
その他の包括利益累計額合計	694,465	254,282
新株予約権	37,269	50,723
少数株主持分	345,043	411,725
純資産合計	5,140,888	5,120,336
負債純資産合計	9,052,562	8,807,072

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
売上高	17,331,368	18,579,491
売上原価	11,747,316	12,481,317
売上総利益	5,584,052	6,098,173
販売費及び一般管理費	4,486,210	5,087,835
営業利益	1,097,841	1,010,337
営業外収益		
受取利息	5,295	1,249
受取配当金	793	496
保険解約返戻金	4,374	—
投資有価証券売却益	—	661
為替差益	—	412
助成金収入	7,114	—
投資事業組合運用益	6,708	3
雑収入	1,541	1,810
その他	2,971	1,921
営業外収益合計	28,799	6,555
営業外費用		
支払利息	2,078	2,229
為替差損	395	—
支払補償費	4,724	—
自己株式取得費用	1,165	—
創立費償却	—	1,014
持分法による投資損失	1,470	40,882
その他	916	549
営業外費用合計	10,749	44,675
経常利益	1,115,891	972,217
特別損失		
固定資産除却損	394	7,551
投資有価証券評価損	3,057	139
出資金評価損	—	13,696
事務所移転関連損失	2,678	6,225
和解金	—	3,015
特別損失合計	6,130	30,628
税金等調整前四半期純利益	1,109,760	941,589
法人税、住民税及び事業税	380,614	378,969
法人税等調整額	43,970	29,934
法人税等合計	424,584	408,904
少数株主損益調整前四半期純利益	685,175	532,685
少数株主利益	65,812	44,790
四半期純利益	619,363	487,894

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	685,175	532,685
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△25,886	△414,537
為替換算調整勘定	10,907	△25,645
その他の包括利益合計	△14,979	△440,182
四半期包括利益	670,196	92,502
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	603,263	47,711
少数株主に係る四半期包括利益	66,933	44,790

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
	クリエイティブ 分野(日本)	クリエイティブ 分野(韓国)	医療分野	計				
売上高								
外部顧客への売上高	10,590,739	2,446,795	2,271,144	15,308,679	2,022,688	17,331,368	—	17,331,368
セグメント間の内部 売上高又は振替高	18,492	2,437	—	20,929	10,439	31,368	(31,368)	—
計	10,609,231	2,449,233	2,271,144	15,329,609	2,033,127	17,362,737	(31,368)	17,331,368
セグメント利益	624,951	17,622	381,795	1,024,369	69,037	1,093,407	4,434	1,097,841

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、IT・法曹・会計他の事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額4,434千円は、セグメント間取引消去であります。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年3月1日至平成27年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
	クリエイティブ 分野(日本)	クリエイティブ 分野(韓国)	医療分野	計				
売上高								
外部顧客への売上高	11,428,461	2,604,109	2,410,739	16,443,309	2,136,181	18,579,491	—	18,579,491
セグメント間の内部 売上高又は振替高	14,010	404	—	14,414	4,903	19,318	(19,318)	—
計	11,442,471	2,604,513	2,410,739	16,457,724	2,141,084	18,598,809	(19,318)	18,579,491
セグメント利益	569,239	15,510	422,279	1,007,030	1,237	1,008,267	2,070	1,010,337

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、IT・法曹・会計他の事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額2,070千円は、セグメント間取引消去であります。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。